

# 下落合みどり幼稚園 月報

2026年5月 Vol.69 No.2

新宿区中落合 4-3-1 TEL3953-6112

「ゆたかに生きる力」

園長 水野邦彦

年初にリニューアルされた当園のホームページのトップには、「ゆたかに生きる力」という言葉が大きく掲げられています。

この「ゆたかに」とは、もちろん物質的な豊かさを指す言葉ではありません。一言で言えば、「情動的な豊かさ」とでも言えるでしょうか。

「情操教育」という言葉があります。これは、美しいものや優れたものに触れて感動する心や、思いやり、道徳心など、豊かな人間性や内面的な感情を育む教育のことを指します。知力だけでなく、感性や想像力、他者への共感力を養うことを目的としており、幼児期から十歳頃までの、体験を伴う学びが重要であると言われていています。

みどり幼稚園の教育は、教師一人ひとりがこのような点を心に留めながら、遊びの一つひとつにおいても子どもたちと言葉を交わし、心を通わせる中で、日々実践されています。それは、私が在園していた当時から変わらない、本園の大切な姿であるように思います。

さて、このような「ゆたかに生きる力」は、現代

社会において、ますます重要視されるべきものではないでしょうか。

OECD(経済協力開発機構)が取り組む教育プロジェクト「エデュケーション2030」では、「生き延びる力」の育成が提唱されています。この「生き延びる力」とは、「協働して新しい価値を創造する力」「危機的状況に際してもバランスを保つ力」「自己を客観視し、説明責任を果たす力」という三つの力を育てることが重要であるとされています。

また、私の母校である早稲田大学には、「たくましい知性」という理念があります。これは、知識や論理的推論だけを頼りに、制限時間内で問題を解くことを目的とするのではなく、答えのない問題に対して、自らの頭で考え抜き、解決策を見いだしていく知性を育てるという考え方でです。

VUCA時代と呼ばれる、将来の予測が極めて困難な現代社会において、この「生き延びる力」や「たくましい知性」を身につけるためには、私たちが日々大切にしている「ゆたかに生きる力」を、幼い頃から丁寧に育んでいくことこそが重要なのだと、私は考えています。